

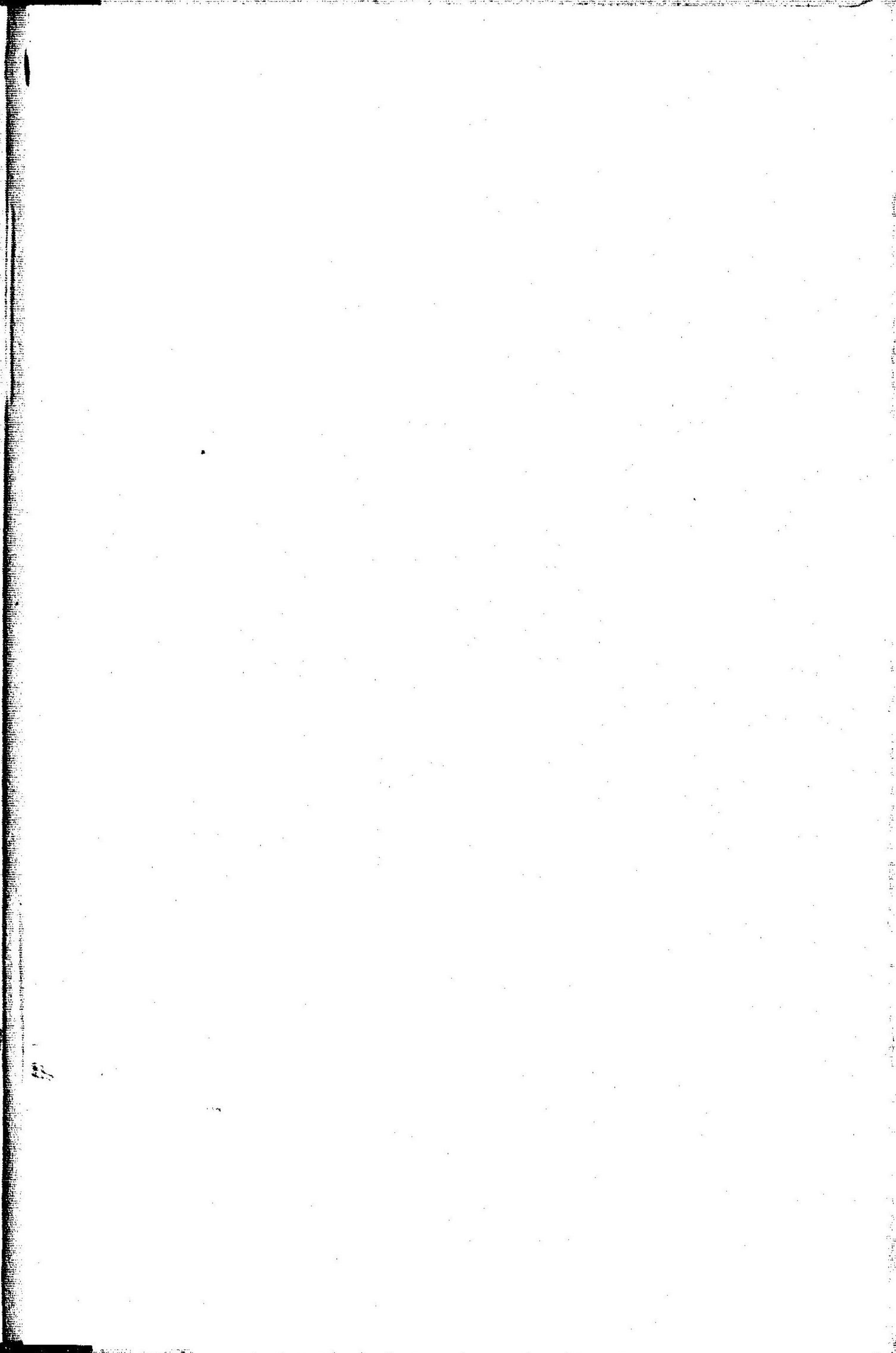
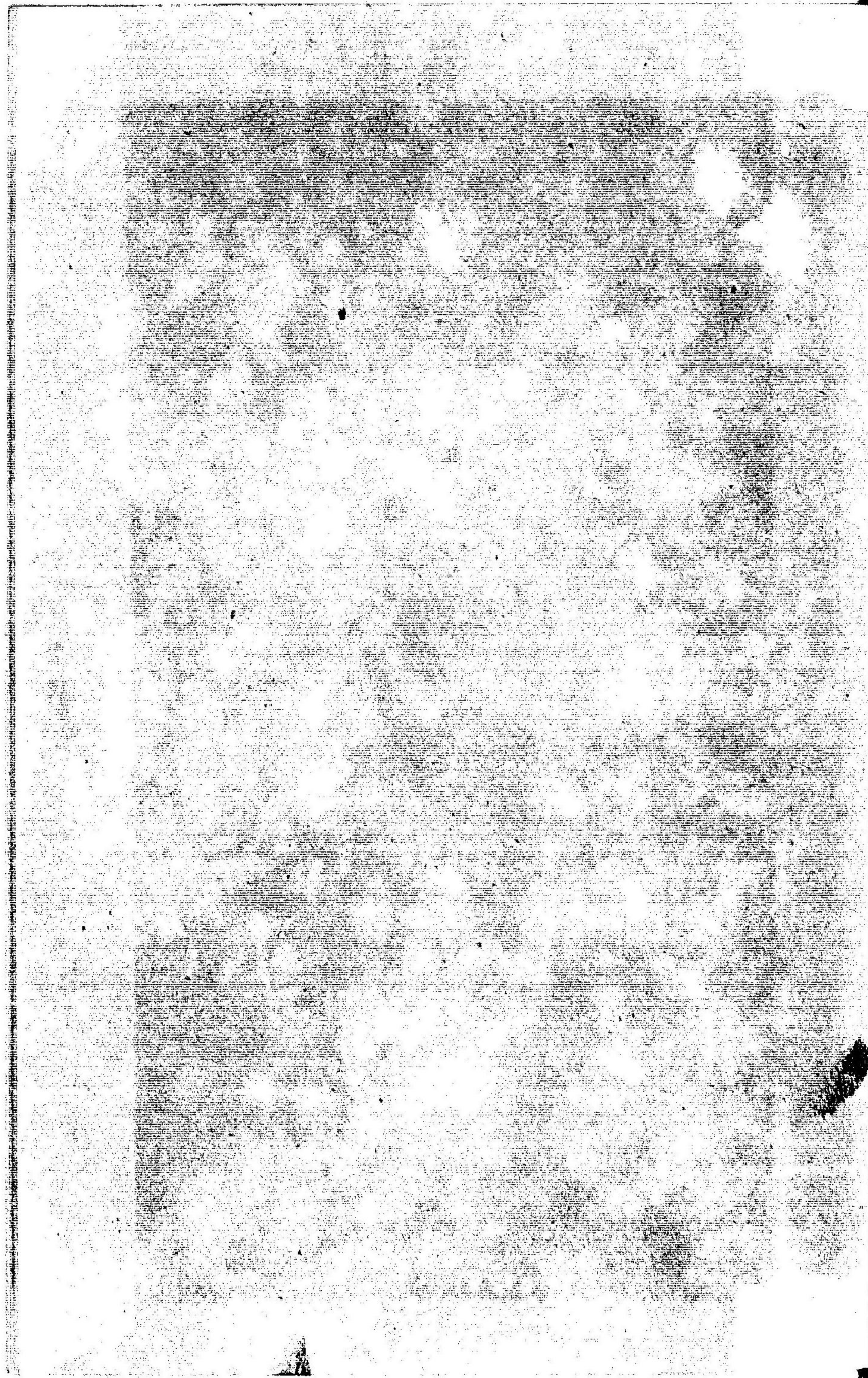
太田 聿郎 註解

標
註
兵
勇
規
則
書

明治十七年
十月

大阪

龍池館刊行



朕惟
天
大
武
門
二
時
三
兵
農
始
元
分
三
建
之
治
ヲ
成
ス
成
辰
ノ
一
新
有
餘
年
來
ノ
一
大
變
革
也
此
際
海
陸
兵
制
亦
用
三
從
七
制
也

我朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪
 ヲル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸シハ農タリ工タリ又商買タリ固ヨリ後
 世ノ雙刀ヲ帯ヒ武士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者
 ノ如キニ非ス抑神武天皇珍彥ヲ以テ葛城ノ國造トナセヨリ爾後軍國ヲ設ケ衛士防
 人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頽弛兵
 權終ニ武門ノ手ニ墜キ國ハ封建ノ勢ヲ爲シ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ至リ名分
 全ク泯没シ其弊勝テ言フ可カラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及ヒ
 遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ
 權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニ
 スル基ナリ是ニ於テ士ハ従前ノ士ニ非ス民ハ従前ノ民ニアラス均シク皇國一般ノ民
 ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラ

明治五年壬午十一月廿八日
 著之ヲ全國ニ普及之ヨ
 明治五年壬午十一月廿八日

徵兵告諭

我朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪
 ヲル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸シハ農タリ工タリ又商買タリ固ヨリ後
 世ノ雙刀ヲ帯ヒ武士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハサル者
 ノ如キニ非ス抑神武天皇珍彥ヲ以テ葛城ノ國造トナセヨリ爾後軍國ヲ設ケ衛士防
 人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頽弛兵
 權終ニ武門ノ手ニ墜キ國ハ封建ノ勢ヲ爲シ人ハ兵農ノ別ヲ爲ス降テ後世ニ至リ名分
 全ク泯没シ其弊勝テ言フ可カラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及ヒ
 遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劍ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ
 權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニ
 スル基ナリ是ニ於テ士ハ従前ノ士ニ非ス民ハ従前ノ民ニアラス均シク皇國一般ノ民
 ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラ

時15
 103

サルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ必力ヲ盡シ國ニ報セザルヘ
カラス(中略)且ツ國家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ得ヌ是故ニ人々必
力ヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレ
ハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人々其役ニ就カサルヲ得ヌ是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵
ノ法タル固ヨリ天然ノ理ヨシテ偶然作意ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ辨
酌シ時ト宜チ制セザルヘカラス西洋諸國數百年來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故チ以テ
其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナルニ悉ク之ヲ用テ可カヌ故ニ今其長ス
ル所ヲ取り古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒ニ半歳ニ至ル者ハ盡シ兵
籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ郷長坐正厚ク此御趣意ヲ奉リ徵兵令ニ依リ民衆
ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキモノ也
明治五年壬申十一月廿八日

緒言

一本書ハ明治十六年十二月廿八日第四十六號ヲ以テ
布告セラレタル改正徵兵令ヲ解釋シ以テ便覽ニ供
セントス故ニ之ヲ題シ兵事規則全書ト云フ徵兵事
務條例事務取扱手續右ニ關スル追告及ヒ伺指令ノ
如キハ續編トナシテ不日出版セントス
一改正徵兵令ノ發布セララルヤ日尙ホ淺キヲ以テ之ヲ
讀ム者或ハ了解ニ苦ム者ナキニアラス是ヲ以テ專
ラ平易ヲ旨トシ逐條之ヲ解釋ス要ハ一目ノ下文意

ヲ會得セシムルニアリ
 一上欄ハ本文中最モ解シ難キ字句ヲ摘載シテ其意味
 ナ明瞭ニス

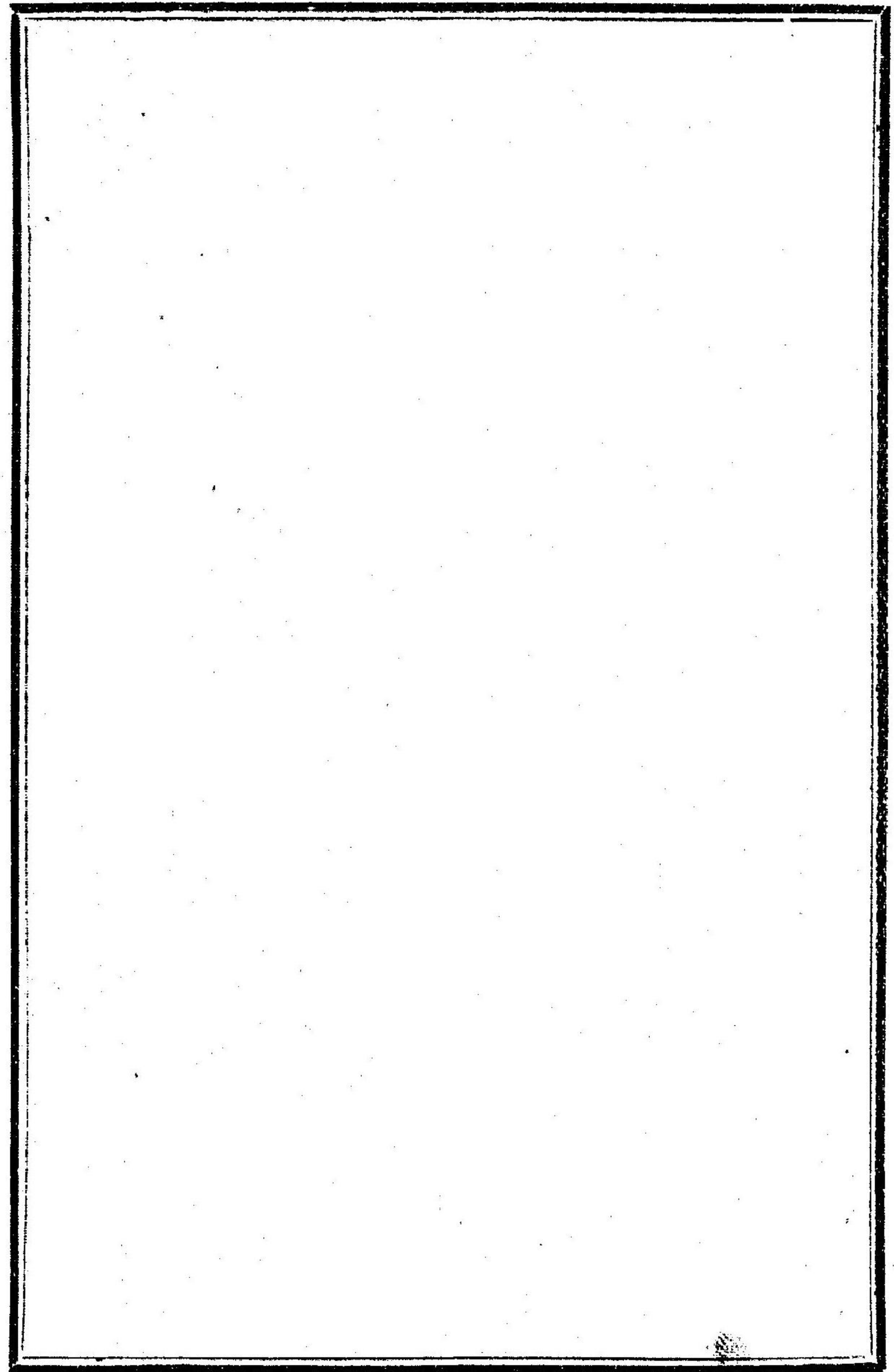
明治十七年十月

編者誌

標註 兵事規則全書目錄

徵兵令

第一章	總則	自第一條 至第七條	一丁
第二章	服役	自第八條 至第十五條	十丁
第三章	免除及ヒ猶豫	自第十六條 至第二十三條	二十一丁
第四章	徵兵區及ヒ抽籤	自第二十四條 至第二十九條	五十九丁
第五章	補充員及ヒ豫備徵員	自第三十條 至第三十三條	六十七丁
第六章	雜則	自第三十四條 至第四十五條	七十三丁
目錄以上			



兵種												免除及猶豫												屆出												年齡計算											
常備		現役		備後		充補		徵集		國民		第一		第二		第一		第二		第一		第二		第一		第二		第一		第二		第一		第二													
期限ヲ三ヶ年トシ満二十歳ヨリ満二十四歳迄		期限ヲ四ヶ年トシ満二十四歳ヨリ満二十八歳迄		期限ヲ五ヶ年トシ満二十八歳ヨリ満三十三歳マテ		期限ヲ一ヶ年トシ満二十一歳ヨリ満二十二歳マテ		期限ヲ一ヶ年トシ其期限内徴集ノ命ナキ者及ヒ官立大學校本科生生徒ニヶ年以上ノ課程ヲ卒リタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者及ヒ第一徴備軍ヲ卒リタル者満三十二歳マテ		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者		満二十歳ニシテ現役ノ徴集ヲ猶豫セラレタル者															
① 陸海軍生徒		② 陸海軍生徒		③ 陸海軍生徒		④ 陸海軍生徒		⑤ 陸海軍生徒		⑥ 陸海軍生徒		⑦ 陸海軍生徒		⑧ 陸海軍生徒		⑨ 陸海軍生徒		⑩ 陸海軍生徒		⑪ 陸海軍生徒		⑫ 陸海軍生徒		⑬ 陸海軍生徒		⑭ 陸海軍生徒		⑮ 陸海軍生徒		⑯ 陸海軍生徒		⑰ 陸海軍生徒															

徵集												猶豫者												罰則年數												適齡年度											
常備		現役		備後		充補		徵集		國民		第一		第二		第一		第二		第一		第二		第一		第二		第一		第二		第一		第二													
満二十一歳四月二十日ヨリ鎮守又ハ軍艦ニ在役ス		平生ハ入營セズ戰時又ハ事變ノ時召集ス其外ハ		年々一度復習點呼ノ爲メ召集ス		平生ハ入營セズ戰時又ハ事變ノ時召集ス其外ハ		年々一度復習點呼ノ爲メ召集ス		平生ハ入營セズ戰時又ハ事變ノ時召集ス其外ハ		年々一度復習點呼ノ爲メ召集ス		平生ハ入營セズ戰時又ハ事變ノ時召集ス其外ハ		年々一度復習點呼ノ爲メ召集ス		平生ハ入營セズ戰時又ハ事變ノ時召集ス其外ハ		年々一度復習點呼ノ爲メ召集ス		平生ハ入營セズ戰時又ハ事變ノ時召集ス其外ハ		年々一度復習點呼ノ爲メ召集ス		平生ハ入營セズ戰時又ハ事變ノ時召集ス其外ハ		年々一度復習點呼ノ爲メ召集ス		平生ハ入營セズ戰時又ハ事變ノ時召集ス其外ハ		年々一度復習點呼ノ爲メ召集ス															
① 附籍ノ戸主		② 附籍ノ戸主		③ 附籍ノ戸主		④ 附籍ノ戸主		⑤ 附籍ノ戸主		⑥ 附籍ノ戸主		⑦ 附籍ノ戸主		⑧ 附籍ノ戸主		⑨ 附籍ノ戸主		⑩ 附籍ノ戸主		⑪ 附籍ノ戸主		⑫ 附籍ノ戸主		⑬ 附籍ノ戸主		⑭ 附籍ノ戸主		⑮ 附籍ノ戸主		⑯ 附籍ノ戸主		⑰ 附籍ノ戸主															

清小島集表

軍管	師管	國	名
第 一	第 一	武藏ノ内	麩町區 神田區 日本橋區 芝區 麻布區 赤阪區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區 淺草區 横濱區 荏原區 南豐島區 北豐島區 南足立區 北足立區 東多摩區 西多摩區 南多摩區 北多摩區 久良岐區 橘樹區 都筑區 新坐區 入間區 高麗區 比企區 横見區 秩父區 兒玉區 那珂區 賀美區 大里區 旆羅區 相模 甲斐 伊豆 上野 榛澤區 男衾區
第 二	第 二	信濃ノ内	南佐久區 北佐久區 小縣區 埴科區 更級區 上高井區 下高井區 上水内區 下水内區
第 三	第 三	陸前ノ内	仙臺區 名取區 磐城 岩代 羽前 越後 柴田區
第 四	第 四	陸前ノ内	宮城區 栗原區 登米區 志田區 玉造區 遠田區 黒川區 加美區 本吉區 桃生區 陸奥 羽後
第 五	第 五	尾張ノ内	名古屋區 愛知區 桑名區 中島區 海東區 海西區 知多區 信濃ノ内 東筑摩區 西筑摩區 南安藝區 北安藝區 三河 遠江 駿河 上伊那區 下伊那區 諏訪區 北安藝區
第 六	第 六	尾張ノ内	東春日井區 西春日井區 美濃 加賀 能登 越 丹羽區
第 七	第 七	攝津ノ内	東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區 北區 東成區 住吉區 名草區 神戶區 西成區 島上區 島下區 豐島區 能勢區 八都郡 菟原區 武庫郡 川邊區 和泉 近江 伊賀 山城 大和 河内
第 八	第 八	攝津ノ内	播磨 淡路 若狹 丹波 丹後 但馬 美 有馬區 播磨 伯耆
第 九	第 九	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	
第 十	第 十	阿波 讚岐 伊豫 土佐	
第 十一	第 十一	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩	
第 十二	第 十二	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬	
第 七	第 七	渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千嶋	

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス
 徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設
 シル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管
 轄ニ屬セシム

標註

國內我日本國兵員常備
 中ナ云フ
 國民一切ノ徵集徵召シ
 兵員ナ云フ
 又ハ軍艦コ安寧ヲ保全
 募集スル
 ヲモナマ外寇外國ノ
 ツタフス外寇アダ内
 賊日本國內ノ禍害ナ
 ムホンニ禍害ギ
 具ダウ政府ミオカ本令此
 令施行實地ニホトコ安
 全アン無智ノ徒ナキモ
 シンノ無智ノ徒ナキモ
 ノ兵役兵士トナリテ軍
 事ニ服従スル

標註 兵事規則全書

太田聿郎註解

徵兵令

(註解) 徵兵令トハ國內非常ノ際ニ要スル兵員ヲ
 徵集スル規則ヲ云フ凡ソ國家ノ安寧ヲ保全
 セント欲セハ必ラス外寇内賊等ノ人民ニ禍
 害ヲ及ボスヲ防グノ具ナカル可ラス然リ而
 シテ之ヲ防ク兵ニ非ラサレハ能ハス故ニ政
 府ハ本令ヲ施行シ以テ人民ヲ安全ナラ
 シメント欲スルナリ然ルニ無智ノ徒或ハ兵

義務人ノオコナフ考一
 考ヨシク平生ツテ他
 ノ保護ニ在リテワレ
 ンノアツ就役兵役ニ
 ナモル誤謬ガヘ

全体ソウツウニ総括スル種
 常備兵豫備兵期限年
 願後備兵國民兵
 ノキ示スルニ全日本國

役ニ就ツテ嫌フモノアリ是レ蓋シ國家ニ對
 スルノ義務ヲ知ラサルニ因ル考一考スレハ
 己レ平生已ニ他ノ保護ヲ受ケ而シテ我亦タ
 カチ盡シテ他ヲ保護センコトヲ忘レテ可ナ
 ランヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ彼ノ就役ヲ嫌フ
 モノ、如キハ甚シキ誤謬ト謂フ可キノミ

第一章 總則

(註解) 總則トハ此徵兵令ノ全体ヲ總括セシ規則
 ナ云フ即チ第二章以下ニ掲ル兵役ニ服ス
 チ得ヘキ者又ハ兵役ノ種類及期限等ヲ示ス

内ノコ 總テラズ

軍事サ 此ノ如クコノ
 リ十七歳ヨリ四血氣勇
 壯ケツキ
 サカン

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳

迄ノ者ハ總テ兵役ニ服スヘキモノトス

(註解) 我日本國ノ男子ニシテ年齡滿十七歳以上

滿四十歳以下ノモノハ悉ク陸軍海軍ノ兵士
 トナリテ軍事ニ服役スヘキモノト定ム而シ
 テ其兵士トナルヘキモノ、年齡ヲ此ノ如ク
 定ムルモノハ蓋シ兵士ハ血氣勇壯ナラザレ
 ハ堪ユベカラサルニ因ル

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役
 及ビ國民兵役トス

區別
ナハ

後援
ナハ

(註解)凡ソ兵士トナリテ軍事ニ服役スベキモノハ陸軍海軍共ニ分ナテ三トナス即チ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役是レナリ

常備兵役ニ二個ノ區別アリ一ハ鎮臺又ハ軍艦ニ在リテ常ニ臨時ニ備フモノ之ヲ現役ト謂ヒ一ハ平生自宅ニ在リテ各其家業ヲ營ミ戰時又ハ非常ノ際現役兵ニ次キテ軍事ニ服役スルモノ之ヲ豫備役ト謂フ

後備兵役トハ平生自宅ニ在リテ各其家業ヲ營ミ戰時又ハ非常ノ際常備兵ノ後援トナル

不足
ヌ

安危
ウキ

ナコ
ト

一致協同
アハセ

防禦

ヘキ爲ニ備フル兵役ナ云フ

國民兵役トハ後備兵役ト同シ平生自宅ニ在リテ戰時又ハ非常ノ際後備兵ノ不足セシキニ當リテ兵事ニ服役スヘキモノヲ云フ即チ國民一般兵士トナリテ軍役ニ服スルノ義ナリ抑モ戰時若シハ非常ノ時ニ當リ常備兵後備兵己ニ盡キ國民兵ヲ徵集スル如キハ實ニ國家ノ安危ニ關スル一大事變ト謂ハサル可カラス是時ニ當リテ國民タル者焉之ヲ後援ス可シヤ須ラシ一致協同シテ以テ之ヲ

フセ 此役 國民兵役
グ 此役 ナ云フ

別ニ差別 現役ハ三箇年
例之ハ明治十八年四月入
營シタルモノハ廿一年
四月廿日ニ豫備役ハ四
終ルカ如シ
箇年 例ハ明治二十一
年四月二十日ニ豫
備役トナリタルモノハ
二十五年四月二十日終
ルカ
如シ

防禦スヘキナリ是レ此役ノ設ケアル所以ナ

第三條 常備兵役ハ別テ現役及ビ豫備役トス
其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歳ニ至リタ
ル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ
終リタル者之ニ服ス

〔註解〕常備兵役ヲ役ナテ二トナス即チ現ニ服役
スヘキモノト豫シメ備フル兵役トナリ其現
ニ服役スヘキモノハ期限チ三箇年トナシ年
齡滿二十歳トナリタル者ガ之ニ服役シ其豫

服役
ソカハ
ソル

後備兵役云々 例ハ明
治二十五年
年四月二十日豫備兵役
ヲ終リテ後備兵トナリ
タルモノガ三十年四月
二十日ニ終ルカ如シ

シメ備フル兵役ハ期限チ四箇年トナシ現ニ
服役セシモノハ期限チ三箇年ヲ過ギタルモノガ
之ニ服役スヘキモノトス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終
リタル者之ニ服ス

〔註解〕後備兵ノ服役ハ其期限チ五箇年トナシ常
備兵役即チ現役三箇年豫備役四箇年ヲ過ギ
タル者ガ之ニ服役スルモノトス

第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳
迄ノ者ニシテ常備兵役及ビ後備兵役中ニ在ラ

從事
ガフ

期限
年戰時
アリシトキ

事變
ヤウ際
臨時イ

演習
ヘサ
觀兵式
天子カ兵

航海中
舟ニ乘リテ海

駐劄
トウリ
ユウ

サル者之ニ服ス

〔註解〕國民一般ノ兵事ニ服役スルハ年齡滿十七

歳以上滿四十歳以下ノ者ニシテ常備兵役現

豫備又ハ後備兵役ニ從事スルモノ、外ハ悉

ク之ニ服役スヘキモノトス

第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ

事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵

ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ

其期ヲ延スコトアル可シ

〔註解〕常備後備國民ノ各兵役ノ期限已ニ過去ル

技藝
ナドヲ云フ

解散
隊伍ヲ
隊伍
キヤウ

時日
ツキ
ヒ

重罪
ノ刑
死刑無期徒刑
有期徒刑無期

流刑
有期流刑重懲役
輕懲役重禁獄輕禁獄

權
國民ノ特權官吏ト爲
ルノ權勳章年金位記

貴號
恩給ヲ有スル權外
國ノ勳章ヲ佩用スルノ

權
兵籍ニ入ルノ權裁判
所ニ於テ証人ト爲ルノ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服

スルコトヲ許サス

〔註解〕重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ自ラ公權ヲ

剝奪セラレタルヲ以テ兵役ニ服役スルコト

權後見人ト爲ルノ權分
 散者ノ管財人ト爲リ又
 ハ會社及ヒ共有財産ヲ
 管理スルノ權學校長及
 ヒ教師學監トナルノ權
 以上九個ノ權ヲ云フ
 剝奪ゲラル服從シテ方
 法シカ應ツウ身材カラ
 トナニ藝能モノゴトナ職
 業工騎兵馬ニノ工兵
 ダイバ又ハハンナ
 ドヲ建築スル兵士輜重
 兵荷物ヲ運送 雜卒看病
 兵スル兵士 雜卒看病
 使ナドナ
 スル兵士

ヲ許サ、ルナリ

第二章 服役

(註解)此章ハ各種ノ兵役ニ服從スヘキ方法ヲ示シタルナリ

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯

丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜

重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當

籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

(註解)陸軍ノ現ニ服役スヘキ兵士ハ年々必要ト
 スル所ノ人數ニ應シテ壯丁即チ適齡者ノ身

區別ヲケ 抽籤シテ常
 籤アリ 壯丁滿二十歳
 現役
 適齡者

體材智藝能職業ニ從ヒテ步兵騎兵砲兵工兵
 輜重兵及ヒ雜卒職工ノ七種ニ區別シ之ヲ服
 役セシムルノ法ハ籤ヲ抽カシメ其籤當リノ
 者ヲ以テ各種ノ隊伍ニ編入ス 第四章
 參看

沿海地方ノ土地島嶼シ
 調査トリシ適カナ

本令コノ徵
 兵令

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方
 及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ
 從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ
 當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規
 則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス
 (註解)海軍ノ現ニ服役スヘキ兵士ハ海軍ニ必要

編入
ノ
ミ
イ

公平
オ
ホ
ヤ
ケ

トスル所ノ人数ニ應ジテ海岸ノ土地又ハ島嶼ノ人民ヲ取調ヘテ海軍ニ適當スル職業即チ舟子舟鍛冶舟大工等ノ職業ニ從ヒテ水兵火夫職工ノ三種ニ區別シ之ヲ服役セシムルノ法ハ籤ヲ抽カシメ其籤當リノ者ヲ以テ隊伍ニ編入ス然リト雖モ海軍志願ノ兵士ヲ徵募スル規則ニ依リテ兵役ニ就ク者ハ此徵兵令ニ定ムル各本條ノ外タルヘシ然リ而シテ本條服役セシムルニ抽籤ヲ以テスル者ハ公平ニシテ私ナキノ意ヲ示シタルナリ

職務
メ
ト
短縮
メ
ル
減
ラ
ス

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

歸休
メ
自
宅
ニ
カ
エ
リ
テ
休
息
ス
ル
コ
ト

(註解)陸軍雜卒ノ現ニ服役スル期限ハ他ノ兵士ト同シク三箇年ナレモ其職務ニ因リテ之ヲ短縮シテ一箇年又ハ二箇年ニテ歸休ヲ命スルコトアル可シ然レモ常備兵役ノ全期即チ七箇年ヲ減少シテ五箇年又ハ三箇年トナス等ノコトハナカル可シ

志願
ノ
シ
ム
ガ
ヒ

第十條 年齡滿二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳

官立 太政官又ハ諸省
院廳ヨリタテル
府縣立 府又ハ縣廳ヨ
リタテタル

所持
ツモ

食料 飲食物被服ノ
代金 被服ノ
費用 イリ自辨ツグナフ
ユウ ヌウ

以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

〔註解〕年齢満二十歳トナラサル者ニテモ満十七

歳以上ノ者ハ現ニ服役セシコトヲ願出タル

モノハ隊伍ニ編入シテ兵士トナルコトヲ得

ルナリ

第十一條 年齢満十七歳以上満二十七歳以下ニ

シテ官立府縣立學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持

シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願

ニ因リ一箇年間陸軍現役ニ服セシム

〔註解〕年齢満十七歳ヨリ満二十七歳マデノモノ

全科科業ノ卒業オハ
コラス

辨償
ツク正則アタリマ
ナフ

給與
ハマル

技藝
ワザテウ熟達ウツヤ
ンナド

ニナ 若干月以内歸休自
宅

ニカエリテ全期現役三
個月

備役四箇年合
シテ七箇年

ニシテ官立府縣立ノ學校ニ於テ全科ヲ卒業

シタル證書ヲ所持シテ服役中食料ノ代償又

ハ衣類ノ入費ヲ自分ニテ辨償シテ現役兵員

トナラシムコトヲ願出タルモノハ一箇年間陸軍

ノ現役ニ服從セシム但シ食料被服ハ陸軍又

ハ海軍ヨリ給與スル正則トス

其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命

スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減

スルコトナシ

〔註解〕前項現役ヲ願出タル者ニシテ技藝ニ熟達

休憩 ヤス
減少 ヘラ
ス

行狀 ミモ 方正 シキ 歩兵
操練科 ノテ 歩兵 ノテ 操練科 ノテ 卒業
業證書 タル 全科 カキ ツケ
其
期 三 個
年

シタル者ハ一個年以内ニテ隊伍ヲ解キ歸宅
シテ休憩セシム可シ然レハ常備兵役ノ全期
即チ七個年ヲ減少シテ五個年又ハ三個年ト
ナク等ノコトハナカル可シ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル
者及ビ官立公立學校小學校ノ歩兵操練科卒業
證書ヲ所持スル者ハ其期末ダ終ラスト雖モ歸
休ヲ命スルコトアル可シ

〔註解〕現ニ服役シタル兵士中ニテ格別ニ練兵等
ノ技藝ニ熟達シ且行狀ノ正シキ者又ハ官立

公立學校ノ歩兵操練科ノ全科ヲ卒業シタル
證書ヲ所持シシ者ハ其期限即チ三個年ニ滿
タサル者ニテモ隊伍ヲ解キテ歸休ヲ命スル
コトアル可シ

召集 ヨビ イダシテ鎮臺
又ハ營所ニアツメ
ル充實 ノカ ケ 編制 ミ ヲ
コ復習 サ ラ 兵員 兵士 ノ
實査 ツツ チ 點 呼 イ ヲ ビ
ラ ベ ル

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ
召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常
ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内
之ヲ召集シ又兵員實査ノ爲メ毎年一度點呼ヲ
爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スル
コトナシ

召喚 ヨビイ 募集 ツノリ
ダス アツメ

退歩 ヘタニ
ナル

〔註解〕常備兵役ノ一種ナル豫備兵ハ戦争ノアリシ
片又ハ非常ノ時ニ當リテ之ヲ召喚シテ募集
シ常備兵ノ隊伍ニ編入シ又ハ補充兵ノ隊伍
ニ編入ス故ニ平生ニハ自宅ニ在リテ營業ヲ
ナスヲ得ルト雖モ其技藝即チ練兵等ノ技藝
退歩スルノ恐アルヲ以テ復習ノ爲メニ年々
一度三十日間若クハ四十日間鎮臺又ハ營所
ニ之ヲ召集ス又兵士ノ人員ヲ實地檢査ノ爲
メニ年々一度ツ、呼出ヲ爲ス但シ海軍豫備
兵ハ平生自宅ニ在リテモ專ラ海軍ニ在ルト

齊 オナ
シ

後援 ノナツ 平常 ツテヘ
ナヘ イゼイ

後援 ノナツ
ナヘ

齊シキ職業ヲナスモノナレハ技藝退歩ノ患
ナシ故ニ復習ノ爲メニ召集スルコトナシ然
レモ兵員實査ノ爲メニハ之ヲ點呼ス

第十四條

後備兵ハ戦時若クハ事變ニ際シ豫備

兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常
ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ビ兵員實
査ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

〔註解〕後備兵服役中ノモノハ戦争ノ時又ハ非常ノ
時ニ當リ豫備兵ヲ召集シ猶ホ不足ナル片之
ニ次キ召集シテ常備兵現役兵ノ後援ト爲ス

前條第十條載ケル

仍ホソノ軍役ノヤク

故ニ平生ハ自宅ニ在リテ各其家業ヲ營ムコトヲ得ルト雖モ技藝退歩ノ恐アルヲ以テ其技藝ヲ復習スル爲メニ呼出ヲ爲スコト前條ニ載スル豫備兵ト同シコトコシテ海軍後備兵ハ召集セズ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

(註解)國民兵役ニ服従スルモノ即チ滿十七歳以上滿四十歳以下ニシテ常備後備兵役ニ在ラザ

ルモノハ戰爭ノ時又ハ非常ノ時ニ當リテ先ツ豫備兵ヲ召集シ次テ後備兵ヲ召集シタルモ仍ホ兵士ヲ必要トスルトキニ限りテ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ陸海軍ノ兵役ニ服セシムルモノトス故ニ平生ニ在テハ技藝復習ノ爲メ又ハ兵員調査ノ爲メニ呼出ス等ノコトアルナシ

第三章 免除及ヒ猶豫

(註解)此章ハ陸軍海軍ノ兵役ヲ免除スヘキモノト徴集ヲ猶豫スル者トノ制限ヲ示シタルナリ

免除スル徴集ツメル
制限キマ

至難至重 イタリテムツカシク又タイ
 タリテ オモキ
 其間髪ヲ容レヌソノア ヒダカ
 ミモイレラレ 適齡者現
 ヌクヲサシヤ ノ適齡トナルモノノ即熟
 十歳二十歳ノモノ ノ即熟
 讀詭味 ユクヨミテイ注
 ミチワケル 意キチツ忽オク一朝ツ
 意ケル ベ心算ツモリ惑ワシ
 廢疾 ナホラヌヤマヒ盲
 目ツンボオシイサ リナソノ類不具ハヌモノソノ鼻

而シテ其制限タルヤ至難至重ニシテ一步 一歩
 進メテハ猶豫スベキモノトナリ一步ヲ退テ 一歩
 ハ猶豫スベカラサルモノトナリ其間實ニ變 ハ
 チ容レザルナリ故ニ適齡者ハ勿論之ニ關ス ル
 ル者須ラシク熟讀詭味シテ注意ニ注意ヲ加ヘ テ
 テ忽ニスルヲ勿レ何トナレハ一朝之ヲ認ル ル
 并ハ徵集ノ際ニ當リ心算俄ニ變シ惑フイア ル
 ルヲ以テナリ

第十六條 兵役ヲ免除スルハ廢疾又ハ不具等ニ シテ
 徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘザル者ニ

ノナキモノ耳ノナキモ ノ手足ノナキモノノ類
 云ナ

限ル

〔註解〕本條ハ兵役ヲ免除スル制限ヲ示シタルモノ ニシテ
 即チ陸軍海軍ノ各種ノ兵役常備兵役 國民
 兵役ヲ免除シテ服役セシメサル者ハ廢疾又 ハ
 不具等ニシテ徵兵ヲ検査スル規則ニ照準 シテ
 兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル故ニ廢疾又ハ 不具
 等ニアラサル者ニ滿十七歳以上滿四 十
 歳以下ナレハ必ラス第一章ニ掲クル常備 兵役
 後備兵役國民兵役ノ中一個ノ兵役ニ服 ス
 ヘキモノト定ム

照準 ヒカウ
 スル 兵
 役ニ堪ヘサル者 兵士
 リテ服役ノ デキヌモノ
 必ス キツ

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年
 補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際
 シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

〔註解〕本條以下ハ徵集ヲ猶豫スル制限ヲ示シタル
 者ニシテ本條第一項以下第五項ノ資格ヲ有
 スル者ハ鎮臺又ハ營所ニ徵召シテ募集スル
 コトヲ猶豫ス然レモ一般ノ常備兵ヲ徵集ス
 ル年度ノ補充兵ノ人員ガ不足スルトキ又ハ
 戰爭ノ時又ハ非常ノ時ニ當リテハ假令ヒ現
 役ノ徵集ヲ猶豫スルモ畢竟平時ニ止マルヲ

資格
アヒ

徵召 ヨビイ 募集 アツメ
ダス

本條 第十七條
ノコト

第一項 其家ノ嗣子ト他
 家ヘ縁付シタル
 兄弟ヲ除キ全ク同戶籍
 中ノ兄弟ガ同シ年度ニ
 徵集ニ應シ又ハ同上ノ
 中ノ一人現役ニアルヲ
 云

以ツテ兵士ノ人員ヲ必要トスルトキハ之ヲ
 鎮臺又ハ營所ニ徵集シ隊伍ニ編入シテ軍役
 ニ服セシムルモノトス但本條ニ當ル者年齢
 滿三十二歳迄ハ第二豫備徵員トナシ其豫備
 徵員トナリタル年月ヨリ以後六個年以内ニ
 本條ニ掲グル資格ヲ失ヒタルハ現役ニ徵
 集スルモノトス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人
 及ビ現役兵ノ兄或ハ弟一人

〔註解〕兄弟同一時ニ現役ノ徵集ニ應ズル者假令ヘ

本年シト事故ケ

雙生ゴタ妻妾同時ニ分

娠セシモノカナイトテ

年月ニ生情願チガ

同時同シ

ハ兄ハ本年ノ適齡者タルモ事故アリテ翌年廻シトナリ弟ハ其翌年ノ適齡者タルカ又ハ雙生及ヒ妻妾同時ニ分娩セシモノ等ノ如キモノハ其二人ノ内ノ兄カ又ハ弟カ孰レナリトモ情願ニ因テ一人ハ現役ヲ猶豫スヘシ但シ三人以上同一時ニ徵集スヘキハ其三人ノ内一人ヲ猶豫シ他ノ二人ハ現役ニ服スヘキモノトス又兄弟二人アリテ其内ノ一人或ハガ常備兵トナリテ現ニ鎮臺又ハ營所ニ在リテ兵役ニ服シ弟ガ其年限中適齡トナリタ

假令ハ兄ハ十八年云々
 兄ハ明年現役滿期トナル
 弟ガ本年適齡ニシテ
 明年徵集ニナルヘキ
 モノハ弟ヲ猶豫スルコトナ

死没戰爭ノ片死シ又公
 務戰爭ナ負傷キツテ
 病氣ニテ没ス

ル片假令ハ兄ハ十八年徵集ニ應シ弟ハ二十年
 度ノ徵集ニ應ズベキモノナレハ弟ハ現役
 ヲ猶豫スルナリ然レハ三人ノ兄弟アリシハ
 ハ二人ハ現役ニ復シ情願ニ因リテ其内ノ一
 人ヲ猶豫ス

第二項

現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若

クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或

ハ弟一人

(註解) 現ニ兵役ニ服セシ年限中戦死病没シ又ハ公
 務即チ戰爭等ノ爲メニ創傷ヲ負ヒ若クハ疾

病ニ罹リ兵役ヲ免除セラレタル者ノ兄カ或
ハ弟カ就レカ一人ハ現役ノ徵集ヲ猶豫ス但
シ二人以上アルモ猶豫スルハ一人ニ限ル

第三項 戸主年齢満六十歳以上ノ者ノ嗣子或
ハ承祖ノ孫

〔註解〕戸主ノ年齢ガ満六十歳以上ナレハ其嗣子又
ハ承祖ノ孫ハ現役ノ徵集ヲ猶豫スルモノト
ス然レハ戸主タル者若シ満六十歳以下ナレ
ハ其嗣子又ハ承祖ノ孫ト雖モ徵集ニ應スベ
キモノトス

嗣子 ヲツ 承祖ノ孫 父ガ
テ祖父ガ父ノ跡ヲ相續
シテ戸主トナリ其祖父
ノ相續ヲ
スル孫

一家ノ生計ヲ營ムコト
能ハサル者 一軒ノ家ノ
職業ノデキ
ヌモ

第四項 戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生
計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ
承祖ノ孫

〔註解〕戸主ノ年齢ヲ論セズ其身癡疾又ハ不具等ニ
シテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣
子又ハ承祖ノ孫ハ現役ニ徵集スルコトヲ猶
豫ス本項一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者
ノ十五字意ヲ注ギテ之ヲ讀ムベシ若シ戸主
癡疾又ハ不具アリトモ一家ノ生計ヲ營ムコ
トヲ得ルモノハ年齢満六十歳以上ニアラサ

参看 ミア
ハス

戸主 コシユ
此項ノ戸主ハ世襲ノ戸主ヲ云フ

管理 カンリ
イハ 養育 ヤウイク
ナフ

責任 セキイン
メ

凍餒 トウニョウ
スル 同居 ドウキョウ
戸主 コシユ
即

甲ノ戸主ニシテ自ラ生計ヲ營ムモノト乙ノ戸主ニシテ自ラ生計ヲ營ムモノカ一家ニ合住スル戸主

レハ其嗣子承祖ノ孫ノ徵集ヲ猶豫スルコト
ナシ第二十二條第二項第三項第四項第六項
ヲ参看スヘシ

第五項 戸主

〔註解〕戸主タル者ハ一家ヲ管理シ家族ヲ養育スルノ責任アル者ナレハ若シ之ヲ徵集スルハ一家忽チ凍餒ニ迫ルノ恐レアリ故ニ現役ノ徵集ヲ猶豫ス然レモ一代分家ノ戸主又ハ絶家再興ノ戸主廢家再興ノ戸主附籍戸主及ビ年齡滿六十歳以下ノ先戸主又ハ祖父又ハ兄チ有スル

戸主等ノ如キハ徵集ヲ猶豫スルコトナシ且同居戸主ノ如キモ本項ノ制限内ナレモ一代分家ノ戸主絶家再興戸主廢家再興戸主附籍戸主及ビ年齡六十歳以下ノ先戸主又ハ祖父又ハ兄チ有スル戸主ハ猶豫セス第二十二條ヲ参看スヘシ

第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

〔註解〕本條第一項以下第九項ノ資格チ有スル者ハ其事故第一項以下第九ノ事項ニ至ルノ事項ノ現存スル年限内ハ

現存 ゲンソン
イヌル

參看 ミア
ハス

神官 カン
スシ 僧侶 ボウ

教化 オシ
エ 關係 カ、
ハル

第一項 此項ニ當ル者現
役適齡年度ノ九

現役ノ徵集ヲ猶豫スルモノトス然レモ其事
故七個年以内ニ止ミタルキハ亦タ徵集ニ應
スヘキモノトス但シ七個年以上事故ノ存ス
ル者ハ年齡滿三十二歳迄ハ第二豫備徵員ト
ナス本項存ノ一字注意シテ之ヲ讀ムヘシ 第
十二條
參看

第一項 教正ノ職ニ在ル者

〔註解〕教正トハ神官僧侶ノ職名ニシテ此等ノ者ハ
其職トスル所國家ノ教化ヲ掌ルモノナレハ
若シ之ヲシテ現役ニ徵集スルアラハ其關係

月十六日以後ナレハ徵
集ヲ猶豫スルコトナシ
第二十三
條參看

第二項 此項モ前項ト同
シク現役適齡年
度ノ九月十六日以後ナ
レハ徵集ヲ猶豫セス第
二十三
條參看
設立 モウケ
タテル

スル所甚ク大ナリ故ニ徵集ヲ猶豫スルモノ
トス然シテ教正以下教導職ノ如キハ猶豫ス
ルノ限ニアラス

第二項 官立府縣立學校小學校ノ卒業証書ヲ
所持スル者ニシテ官立公立學校教員

タル者

〔註解〕官立即チ官省ヨリ設立スル所ノ學校ニシテ
大學校文部省直轄師範學校同上女子師範學
校同上中學校農學校商船學校等若クハ府縣
廳ヨリ設立スル學校即チ師範學校醫學校中

學校等ノ公科ヲ卒業シタル證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立私立學校即大中小學校其他ノ學校ニ於テ教員トナリタル者ハ徵集チ猶豫ス本項卒業證書ヲ所持スル者ノ十字注意シテ之ヲ讀ムヘシ若シ卒業證書ヲ所持セスシテ教員タル者ハ猶豫スルコトナキモノトス

第三項 官立大學校及ビ之ニ準スル官立學校

本科生徒

〔註解〕官省ニテ設立スル所ノ大學校又ハ官立大學

第三項 現役適齡年度ノ九月十六日以後本科生徒タルモ徵集チ猶豫セス第二十三條參看

本科普通ノ豫科專門教授
授オシ

校ニ比較スヘキ官立學校ノ本科ノ教授ヲ受ケル生徒ハ之ヲ猶豫スヘシ然レモ豫科ノ教授ヲ受ケル生徒ハ徵集スルモノトス但此項ニ掲ケル生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒業シタルモノ年齢滿二十七歳マデハ第一條備考員トナス第三十一條參看スヘシ 因ニ云フ第ハ二個年以上ノ課程ヲ卒業リタル者トアレモ或ハ傳寫ノ謬ナルカ未タ詳ニスルコトヲ得ス何トナレハ二個年以上ノ課程ヲ卒業リタルモノハ功勞多キモノニシテ二個以下ノ者ハ功勞少キモノナリ故ニ其功勞多キモノヲ第一トナシ功勞少キモノヲ第二トスルハ聊カ權衡ヲ失スルニ似タレバナリ故ニ他日ニ至リテ判然スヘシ

第四項 海軍工夫ノミハ
現役適齡年度ノ

九月十六日以後ナレハ
徵集ヲ猶豫セス第二十

三條參看

目的メア他日ノナ

兵籍 兵士ノ
人籍

身幹 タケ定尺ノキマリ

身體 カラ

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

〔註解〕陸軍海軍ヨリ設立セシ所ノ學校生徒即チ士

官學校生徒又ハ教導團生徒タルモノ若シハ

海軍ノ工夫タル者此等ノ者ハ其目的タル他

日上士官下士官又ハ水兵トナリ陸軍海軍ノ

兵籍ニ入ラント欲スルニ在リ故ニ現役ノ適

齡即チ滿二十歳トナルモ現役ニ徵集セスシ

テ猶豫ヲ興フルモノトス

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タザル者

〔註解〕身體ノ尺寸未ダ定例ノ尺寸ヨリ短カキ者即

チ舊令ニ據レハ四尺八寸未滿ノ者チ云フ此
等ノ者ハ現役ノ徵集ヲ猶豫スルモノトス然
レモ若シ七個年以内ニ定尺ニ滿ルニ至レハ
猶豫セスシテ徵集ス

第六項 疾病中或ハ病後ノ故チ以テ未ダ勞役

ニ堪ヘサル者

〔註解〕病氣中或ハ病氣全快ノ後ニシテ身體疲勞シ

未ダ使用スル能ハサル者ハ現役ノ徵集ヲ猶

豫スルモノトス本項未ダ勞役ニ堪ヘサル者

ノ十字注意シテ之ヲ讀ムヘシ若シ病氣中或

全快ナホ 疲勞ツカ
ル 使用ツカ

第七項 外國ニ寄留スルモ商法ノ爲ニスルモノハ勿論此項ノ外タルベシ

故サラニワザ歸國日本ルカエ

未決ツカス

第八項 民事ノ被告人ハ勿論此制限ノ外

ハ病氣全快ノ後ト雖モ身体ヲ使用スルニ足ル者ハ猶豫ヲ與ヘサルモノトス

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

〔註解〕學術ヲ修業スル爲メ海外ノ諸國ニ寄留スルモノ此等ノ者ハ其目的タル他日我が日本國ノ爲メニ大ニ利スル所アラントスルナリ是ヲ以テ故サラニ歸國セシメ徵集スルノ限ニアラス

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

タルベシ

裁決キヤ刑期間セラレタル年限内

停止メト自ラシテ剝奪ケル公權後ニ

〔註解〕禁錮以上ノ刑即チ輕罪罰金ヲ重罪ノ刑ニ處セラル可キ刑事ノ被告人ト爲リテ其裁判ガ未ダ裁決ナラサル者此等ノ者ヲ猶豫スル所以ハ輕罪ノ一ナル禁錮ニ處セラレタル者ハ其刑期間公權ヲ停止シ又チ重罪ニ在テハ自ラ公權ヲ剝奪セラルベシ故ニ判決ノ後ニ非サレハ公權ヲ剝奪若シクハ停止セララルヤ否ヲ分別シ難ケレハナリ

第九項 公權停止中ノ者

〔註解〕公權トハ刑法ニ所謂國民ノ特權官吏ト爲ナル國民ノ特權日本國民ニ有スル

權印府縣會議員區町會議員ニ選舉セラレ又ハ之ヲ選舉スル位記ヲ貴族華士佩用ニル兵籍兵士ノ証人コニウ分散人籍ヲシテモノ財產シ者リテスルモノ財產シ管理スルヲ

ノ權勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權兵籍ニ入ルノ權裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權後見人ト爲ルノ權分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財產ヲ管理スルノ權學校長及ヒ教師學監トナルノ權以上九個ノ權ヲ云フ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ勿論此公權ヲ剝奪セラレタルモノナルヲ以テ兵役ニ服スルヲ得ズ第七條參照シテ輕罪ノ刑罰金ヲニ處セラレタル者ハ其刑期間此公權ヲ停止セラレ、故ニ其

停止中ハ徵集ヲ猶豫スヘシ故ニ其停止ヲ解カル、ノ日ニ至リテ徵集ス

第十九條 官立府縣立學校ニ於テ修業一

個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内

徵集ヲ猶豫ス

(註解)官立府縣立 第十八條第二項ニ詳ナリ

ニテ小學校ヲ除キ其

他ノ學校ニ於テ修業シテ適齡ノ年度ニ於テ

最早一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒全科

ヲ卒業セシ後ニ於テ第十八條第二項ノ資格

ヲ有スルヲアリ故ニ若シ六個年間ヲ過ルモ

第十九條 此條ニ當ル者

現役適齡年度

ノ九月十六日以後ナレハ徵集ヲ猶豫セス第二十三條參看

假令 タトヘテ
ミレバ

未ダ其資格ヲ有セス假令ハ醫學校ノ生徒
ニシテ該學校ノ全科ヲ卒業スルモ他ノ官立
公立醫學校ノ教員トナラズシテ私ニ醫術ヲ
開業スル者ノ類ナ云フ此等ノ者ハ七個年以
外ニ於テ現役ニ徵集スルモ六個年以内ハ猶
豫ヲ與フルモノトス

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備

復習 テウレンノ點呼 ヨビ
ス サバ 決裁 キ
第二十条條 此條ニ掲クル
官吏戸長教導

兵ニ在ルトヲ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スル
コトナシ但シ戰時若クハ事變ニ際シテハ太政
官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

職官立府縣立學校ノ卒
業證書所持セサル學校
教員等ハ勿論徵集ニ應
スヘキモノトス此條
(召集)ノ二字資格 カク
ニ着眼スヘシ資格 アヒ
概テ タイ 應分 ミブン ン
ウ オウ ニ

(註解) 通常常備兵役中ノ現役三個年ヲ終リタル者
ハ豫備兵役四個年間之ニ服シ然ル後五個年
間後備兵役ニ服シ其豫備兵役ト後備兵役ト
ニ服スル年限中ハ必ラス復習點呼ノ爲メニ
召集スルモノトス然レモ本條第一項以下第
五項ノ資格ヲ有スル者ハ概テ國家ノ爲メ應
分ノ力ヲ盡セシ者ナレハ現役ヲ終リテ豫備
兵役中ニ在ルト後備兵役中ニ在ルトヲ問ハ
ス按テ復習ノ爲メニ鎮臺若クハ營所ニ召
集シ兵員實查ノ爲メニ點呼スルコトナシ但

容易 タヤ
スシ

第一項 等外吏巡查町村
用掛ハ此制限ノ

外タル一職ヲ奉スル者
勿論ナリ
ツトメテ
スルモノ

シ戦争ノ時又ハ非常ノ時ニ當リテハ太政官
ノ決裁ヲ經タル上ニテ召集スルコトアルナ
レハ容易ニハ召集セサルナリ

第一項 官吏判任及ヒ戸長

〔註解〕勅任官奏任官ヨリ判任官即チ一等官ヨリ十
七等官ノ職ヲ奉スル者及ヒ町村ノ戸長タル
モノ

第二項 教導職 試補
除シ

〔註解〕神官僧侶ハ皆十此職ニ在ルモノナリ然レハ
教導職試補以下ハ此制限ノ外タルヘシ

第三項 官立公立學校教員

〔註解〕官立公立學校 小學校モノ教員タル者但シ私
立學校ノ教員ハ此限ニアラス

第四項 府縣會議員

〔註解〕府縣會議ノ議員タルモノ

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業証書ヲ所持
シテ醫術開業ノ者

〔註解〕官立府縣立ノ醫學校ニ於テ全科ヲ卒業シタ
ル証書ヲ所持シテ自宅ニ在テ醫術ヲ開業セ
シ者本項卒業証書ヲ所持シノ八字注意スヘ

含畜 コモ
ル

第四項 府縣會議長副議
長モ議員ヨリ成

立タル者ナレハ此項ニ
適當スルハ言ヲ添サ
リナ

シ若シ卒業證書ヲ所持セサル者ハ此制限ノ外タル可シ

第二十一條 此條ニ當ル者現役適齡

年度ノ九月十六日以後ナレハ徵集ヲ猶豫セズ

第二十三條 餘人ホカ技術條參看

ザフ

技監技長技手技師技手

ミナ官名ナリ

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代

フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ

決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

〔註解〕太政官諸省院警視廳各府縣廳等ニ於テ他ノ

人ヲ以テ代フルコト能ハサル技術ノ職ヲ奉

スル者例ヘハ工部省ノ技監技長技手大藏省

ノ技師技手等ノ職ヲ奉スル者ノ中他ノ人ヲ

以テ代ヘラレヌキハ太政官ノ決裁ヲ經タル

上ニテ現役ノ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

本項餘人ヲ以テ代フ可カラサル云々〔注意〕シ

テ之ヲ讀ムヘシ若シ他ノ人ヲ以テ代フ可キ

キハ此制限ノ外タルヘシ而シテ此條ニ當ル

者七個年間事故ノ現存スル者ハ年齢滿三十

二歳迄ハ第二豫備徵員トナス第三十二條參

看スヘシ

照比較ス 掲クルル

第二十二條 左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シテ

徵集ヲ猶豫スルノ限ニアラス

〔註解〕本條第一項以下第九項ニ掲載シタル者ハ第

十七條ノ資格ヲ有スルモノト見做シテ徵集
テ猶豫スルコトナク現役ニ服サシムルモノ
トス

第一項 附籍戸主及ビ附籍戸主ノ嗣子或ハ承
祖ノ孫

保持ツタモ 一家族イカナ厄
介セ 家財 シン管理シハ
養育イク 責任キヤク
通常ツウ 同日ニシテ論
ス可ラス イツシヨニ
ハイハレヌ 况

〔註解〕戸籍上ニ所謂附籍ナル者ハ已ニ一家ヲ保持
スル能ハスシテ一家族皆共ニ他家ノ厄介ト
ナリタル者ヲ云フ此等ノ戸主ハ己コ家財ヲ
管理シ家族ヲ養育スルノ責任ヲ盡ス能ハサ
ル者タルハ通常ノ戸主ト同日ニシテ論スベ

ソヤマシ
生計クラ 重罪ノ刑 ヲユ
イノシ 更ニアラダ 癡疾
オキ 前ニ詳
不具ナリ

第二項

癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ

第二項 簡略ニイヘハ嗣
子又ハ承祖ノ孫
ガ盲目ナレハ家業ガ出
來ルニシテ嗣子又ハ承
祖ノ孫ヲヤメニシテ現
役適齡ノ者ヲ嗣子又ハ
承祖ノ孫トナスモ猶豫
セサルヲ云フサレ共
現役適齡ノ者カナケレ
ハ立ユカヌモノハ猶豫
スヘキモ
ノトス

カラス況ソヤ其嗣子或ハ承祖ノ孫タルモノ
ヲヤ故ニ徵集ヲ猶豫スルコトナシ
營ムコト能ハザルニ非ス或ハ重罪ノ
刑ニ處セラレタルニ非ズシテ嗣子承
祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メ
タル 嗣子承祖ノ孫
〔註解〕嗣子或ハ承祖ノ孫又ハ相續人タル者ガ癡疾
又ハ不具ナルモ一家ノ生計ヲ營ムニ差支ナ
ク例ヘハ盲目者ナレハ按摩業ヲナハカ又ハ

比較シテ

第三項 簡答ニイヘハ年
齡六十歳以下ニ
シテ何ノワケモナキニ
自分ハ隠居シテ年齢六
十歳以上ノ人チ戸主ト
ナシタラハ其六十歳
以上ノ戸主ノ嗣子又ハ
承祖ノ孫ハ猶豫セヌコ
ト云フカレハ六十歳以
下ノモノ實際一家ノ生

琴三味線ノ師匠チナシテ生計ニ差支ナキチ
云フ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレテ公權ヲ剝奪
セラレシコトモナキニ其嗣子或ハ承祖ノ孫又
ハ相續人チ罷メテ新クニ取極メタル嗣子承
祖ノ孫此等ノ者ハ第十七條ニ比較シテ徵集
ヲ猶豫スルコトナシ

第三項 年齢六十歳未満ノ戸主癡疾又ハ不具

等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハ
サルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレ
タルニ非スシテ戸主チ罷メ年齢六十

計チナスコト能ハサルコ
ト六十歳以上ノモノチ
戸主トナシタルハ其
嗣子又ハ承祖ノ孫ハ猶
豫スヘキ
モノトス

歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタル戸
主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

(註解) 年齢六十歳以下ノ戸主ガ癡疾又ハ不具ナ
ドニテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非
ラス即チ通例職業ノ出來ル身体チ云フ又ハ
重罪ノ刑ニ處セラレテ公權ヲ剝奪セラレシ
コトモナク然ルニ戸主チ罷メテ隠居シ年齢
六十歳以上ノ者ガ其通常職業ノ出來ル戸主
ノ跡ヲ繼ギテ戸主トナリ其上ニテ取定メタ
ル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集ヲ猶豫スルコト

重罪ノ刑ニ處
セラレ、者ハ
自分テ財産ヲ支配スル
コトノ出來サルモノナ
レハ戸主トナルコ
トヲ得サルナリ

ナシ

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ビ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

分家 イヘテ絶家 ツシタ
ルイ再興 オコス 廢家
スイビシタルイヘ例之
ハ附籍トナリタルモノ
カ再タヒ一家ヲ
オコスノ類
制限外ノホカリ

(註解)凡ソ分家シ又ハ絶家ヲ再興シ又ハ廢家ヲ再興シタル戸主及ビ其戸主ノ嗣子タルモノ又ハ承祖ノ孫ハ猶豫スルコトナクシテ徵集ス但シ本項ノ分家戸主絶家再興戸主廢家再興戸主ハ皆ナ一代ノモノヲ云フ故ニ二代以上ナレハ本項ノ制限外ニシテ第十七條ノ戸主

失踪イヘ

失踪者 イヘデシタルモノ

第六項 簡客ニイヘハ第二項第三項第四項ニアル徵集ヲ猶豫セサル嗣子又ハ承祖ノ孫

ニ比較シテ徵集ヲ猶豫スルモノトス

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經ザル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

(註解)嗣子又ハ承祖ノ孫タル者失踪シテ未タ五個年ヲ過キサル内ニ其失踪者ノ跡ニ取極メタル嗣子又ハ承祖ノ孫ハ徵集ヲ猶豫セス但シ失踪後五個年以上ナレハ勿論猶豫ヲ與フルモノトス

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等

ニシテ先戸主ノ年が六十以上デモナク又タ何ノワケモナキニ先戸主ガ隠居シテ現役適齡ノ者ヲ戸主トナシタル者ハ猶豫セサルヲ云フサレト本人デナケレハ立ユカヌ者ハ猶豫スヘシ適當アル

故サラニワザ

ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼ギタル戸主

〔註解〕本條第二項第三項第四項ノ制限内ニ適當シテ徵集ヲ猶豫セサル嗣子又ハ承祖ノ孫ニシテ其戸主ノ男女ヲ論ゼバ年齢滿六十歳以下癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ラズ通例職業ノ出来又ハ重罪ノ刑ニ處セラレル身体ヲ云フテ公權ヲ剝奪セラレシコトモナキニ故サラ

第七項 簡略ニイヘハ六十歳以下ノ戸主ガ何ノワケモナキニ自分ハ隠居シテ其嗣子又ハ承祖ノ孫又ハ相續人ヲ戸主トナシタル類ハ猶豫セサルヲ云フサレト本人ガナケレハ立ユカヌモノハ猶豫スヘキモノトス

ニ戸主ヲ罷メテ隠居シ其隠居シタル戸主ノ跡式相續ヲナシタル戸主ハ猶豫スルコトナキナリ

第七項 年齢六十歳未滿ノ者癡疾又ハ不具等

ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼ギタル戸主

〔註解〕年齢滿六十歳以下ノ戸主ガ癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス

即チ通例職業ノ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレテ
 出來ル戸主ヲ云 又ハ重罪ノ刑ニ處セラレテ
 公權ヲ剝奪セラレシモナキニ故ラニ戸主
 ナ能メテ隱居シ嗣子又ハ承祖ノ孫ノ外他ノ
 相續人ニ其隱居跡ヲ繼ガシメタル戸主ハ猶
 豫スルコトナシ

第八項

第八項 簡略ニイヘハ戸
 主ノ年齢六十歳
 以上其嗣子モ現役ノ適
 齡ヲスギテオルニヘニ
 何ノワケモナクシテ其
 嗣子ヲヤメニシテ外ノ
 現役適齡ノモノヲ嗣子
 トナスノ類ハ猶豫ヒサ
 ルヲ云フナリサレトモ本
 人ガナクハ立ユカヌ

嗣子承祖ノ孫又ハ相續人廢疾又ハ不
 具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能
 ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラ
 レタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若ク
 ハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼ガス他ノ者

モノハ猶豫ス
ルモノトス

ニシテ其跡ヲ繼ギタル戸主

〔註解〕 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人タルモノガ廢疾又
 ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサ
 ルコト非ラス 即チ通例職業ノ出來ル 又ハ重罪
 ノ刑ニ處セラレテ公權ヲ剝奪セラレシモ
 ナキニ戸主又ハ父ノ死亡セシ跡式ヲ相續セ
 ズ若クハ戸主又ハ父ノ死亡セシ跡式ヲ相
 續セシテ他家ノ者又ハ弟ナドニ其跡ヲ相
 續サセタル戸主ハ徵集ヲ猶豫スルコトナキ
 ナリ

他家ヨソノ
他家イヘ

失踪イヘ

失踪者イヘデシタルモノ

制限キマ

各自届出、ケイデル

期限ニテ以後ニ係ル限

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經ザル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

〔註解〕戸主タル者カ失踪シテ後未タ五個年ヲ過キサル内ニ其失踪者ノ跡式相續テナシタル戸主ハ猶豫スルコトナシ但シ五個年以上ニ係ル者ハ此制限ノ外タルヘシ

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四

項陸海軍生第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖

モ第三十五條ニ示シタル徴兵各自届出期限即

チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徴集ヲ猶豫スル

ノ限ニ在ラス

〔註解〕第十八條第一項ニ在ル者第二項官立府縣立

官立公立學校教員タル者第三項官立大學校

スル官立學海軍第十九條官立府縣立

校本科生徒第四項工夫第十九條學校ニ於テ

修業一ケ年以上ノ課第二十一條餘人ヲ以テ

程ヲ卒リタル生徒ニ適當スルモノト雖モ本令第

三十五條ニ示シタル徴兵各自届出期限即チ

九月十六日以後ニ係ル者ハ現役ノ徴集ヲ猶

豫スルコトナシ

第四章 徴兵區及抽籤

徴兵區及抽籤

ヨリノナニ教員大學校
本科生徒海軍工夫技術
トナルコ
トナ云フ

區域カギ抽籤シヨチ

〔註解〕此章ハ兵員ヲ徵集スル區域ト抽籤ノ方法トヲ示ス

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域

ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ

師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從

フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師

管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク

〔註解〕此項ハ兵員ヲ徵集スル區域ヲ定ムルモノニ

シテ其區域ハ軍管師管及府縣ノ三區トナス

其軍管ノ區域ヲ軍管徵兵區ト名ケ師管ノ區

分屬ワカレテ設ク

各別

別表ヤウメノ掲ケル

不足

域ヲ師管徵兵區ト名ケ府縣ノ區域ヲ府縣徵兵區ト名ケ然レハ府縣ノ支配地ガ甲ノ師管ト乙ノ師管ニ分ケラルモノハ甲ノ師管ト乙ノ師管ト各別ニ一區域ヲ設クルモノトス

軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ケ

〔註解〕軍管及ヒ師管ニテ兵員ヲ徵集スル區域ハ別

段ノ表面即チ本書卷ニ掲載ス

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵

區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵

集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ步

補フ不足ヲ
タス

騎兵 馬ニノ砲兵
ル兵士 砲兵 ウカ
ノ兵 工兵 砲兵
士 工兵 ドヲ建築ス
兵 輜重兵 荷物ヲ運送
士 輜重兵 スル兵士 雜
卒 看病卒ツノ外小使
ナトヲスル兵士

兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨ
リ之ヲ補フ

〔註解〕本條モ亦タ兵員ヲ徵集スル區域方法ヲ示シ
タルモノニシテ即チ此項ハ各鎮臺ニ附屬ス
ル歩兵ハ其鎮臺ノ師管徵兵區ヨリ之ヲ徵集
シ其他ノ諸兵即チ騎兵砲兵工兵輜重兵雜卒
等ノ如キハ其軍管徵兵區ヨリ之ヲ徵集スル
モノトス但シ現役ノ徵員及ヒ其補充員不足
スルトキハ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵即チ
騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒ハ他ノ軍管徵

近衛朝廷ヲマ配當ツケ
ル全國日本
國中

抽籤 クマナ
ヒク

兵區ヨリ其不足ヲ補フモノトス
海軍及ビ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シ
テ全國ヨリ之ヲ徵集ス

〔註解〕海軍及ヒ兵衛隊ノ諸兵即チ歩兵騎兵砲兵工
兵輜重兵雜卒水夫火夫職工等ハ一軍管ヨリ
徵集セズシテ日本國內ノ各軍管徵兵區ニ配
當シテ之ヲ徵集スルモノトス 第九條
參看

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フ
モノトス

〔註解〕本條以下ハ現役兵徵集ノ時ニ當リ抽籤ノ方

壯丁 現役適身體カラ檢
齡者 身體カラ檢
査シラ

適當 フカナ
材智 エナ

法ヲ示ス即チ第八條ニ示ス所ノ籤ヲ抽カシ
ムルニハ軍管又ハ師管徵兵區ニ於テセスシ
テ各府縣徵兵區ニ於テ之ヲ行フヲ云フ
府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査終リ
タル後兵役ニ適スヘキ人員ノ身材職業ニ從ヒ
兵種ヲ區別シ番号ヲ定メ抽籤セシム
〔註解〕此項ハ各府縣徵兵區ニテ籤ヲ抽カシムルハ其

徵兵區内ノ壯丁即チ現役適齡者ノ身體ノ檢
査ヲ終リタル後兵役ニ適當ス可キ人員ノ身
體材智又ハ職業ニ從ヒ兵種即チ步兵騎兵砲

區別 ワケ

乃至 ソソレカラ
ソソレマデ

參會 アツ人撰 人々ヨリ
メル 人撰 エラヒタ
テ出頭 ル

籤丁 ベキモノノ 籤簿掛

兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工等ニ區別シ番號
ヲ取極メテ後ニ籤ヲ抽カシムルヲ云フ

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰ヲ以テ
一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

〔註解〕籤ヲ抽カシムルニハ兵役ニ適當スヘキ人員ヲ
悉ク參會セシメバシテ一郡區毎ニ籤丁即チ
兵役ニ適當スヘキ人員ノ人撰ヲ以テ一名ヨ
リ三名マデノ總代人ヲ出頭セシメテ籤ヲ抽
カシムルモノトス

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ

クジヲスルヤウウ面前
メノヲアツカフヤク
メノ籤丁名簿クジヲヒ
マヘ籤丁名簿クジヲヒ
名チカキ正否キトシ
タル帳面正否キトシ
ラスト監スル籤簿ク
ノ帳交付ス

愛憎エコヒ公平ヤケ

現役籤現役ニ服ス補充
籤補充兵ニ服スベキクジ

兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納メ籤簿掛ノ面前ニ置
キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人
ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽
キ擧グル所ノ番號ヲ高聲ニ呼バシメ其籤札ヲ
受取り籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ
交付ス

(註解)本條ハ籤ヲ抽カシムル毫モ愛憎ヲ以テセス
公平ニシテ私ナキヲ示ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

(註解)籤ニ二種アリ一ナ現役籤トシ一ナ補充籤トス其現役籤ハ其番號ヲ現役ニ徵集スヘキ人員ノ數ダケ作り其外ヲ補充籤トナスナリ

第五章 補充員及豫備徵員

(註解)此章ハ補充兵ニ徵集スヘキ人員及ヒ豫備兵ニ徵集スヘキ人員ノ服役期限又ハ之ヲ徵集スルノ方法等ヲ示ス

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ

一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルト

服從方法シカ

之ニ充ツ補充兵ト欠員
ク要イリ順序シダ

第五章

補充員及豫備徵員

非常
ソウ
ドウ

概
テ
イ

キ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

〔註解〕補充兵ハ第二十九條ニ掲ケタル補充兵ヲ抽

キタルモノヲ以テ一個年ノ間補充兵員トナ

ス若シ其期限内現役兵ガ欠員スルカ又ハ戰

争ノ時又ハ非常ノ時ニ當リテ補充兵員ノ入

用ノトキニ限リ其番號ノ順序ニ從ヒテ鎮臺

又ハ軍艦ニ徵集スルモノトス故ニ平生ハ自

宅ニ在リテ家業ヲ営ムコトヲ得

補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カ

ラサルモノトス

〔註解〕補充兵ノ員數ハ概テ現役ニ徵集スヘキ人員
ノ五分ノ二例ヘハ現役兵一万人ナレハ補充
兵ハ四千人以上ナリトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナ

キ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年

以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齢滿二十七歳迄

之ヲ第一豫備徵員トス

〔註解〕補充兵員ニシテ其期限内即チ一個年内ニ徵

集ノ命ナキ者又ハ第十八條第三項ニ掲ケル

官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校ノ本科

徵集ノ命ナキ者入營セ
達ノナ
キモノ
課程
科學

生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者
ハ年齢満二十七歳迄ハ之ヲ第一豫備徵員ト
ナス

豫備徵員ハ未タ兵
士トナラサル
已前ノ名ナレハ常備兵
役中ノ豫備役トハ大ニ
異ナ
リ

該條ニ掲グル資格ヲ失
ヒタル者第十七條ニ
セタルカクア

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集
ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシ
テ七個年間其事故ノ存スル者及ビ第一豫備徵
員ヲ終リタル者年齢満三十二歳迄ハ之ヲ第二
豫備徵員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徵
員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲グル資格
ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

ヒ戸主年齢六十歳以上
ノモノ、嗣子承祖ノ孫
廢疾不具ノ嗣子承祖ノ
孫タルモノガ戸主ヲ止
メルトカ又ハ嗣子承祖
ノ孫ヲヤメルトカニテ
徵集ヲ猶豫セサルモノ
トナリタルト云フ

年限ツキ
ヒ

年度シ

(註解第十七條ノ資格ニ適當スヘキ者ニシテ其現
役適齡年度ニ徵集スルノ命令ナクシテ猶豫
セラレタル者第十八條第二十一條ノ資格ニ
適當スル者ニシテ其適齡年度ニ猶豫セラレ
タル者ガ其事故七個年間現存スル者及ヒ
第一豫備徵員ノ年限ヲ終リタル者以上四個
ノ者年齢満三十二歳迄ハ之ヲ第二豫備徵員
トス然レモ其四個ノ者ノ内第十七條ニ適當
スル者ニシテ第二豫備徵員トナリタル年度
ヨリ以後六個年以内ニ第十七條ニ掲グル資

範圍内イブル

格ヲ失ヒテ徵集シ猶隊スベカラサル範圍内トナルハ現役ニ徵集スルモノトス

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ

兵員ヲ要スルトキ之ヲ徵集ス但第二豫備徵員

ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

〔註解〕豫備徵員ハ戰爭ノ時又ハ非常ノ時ニ當リテ

豫備徵員ヲ必要トスルハアラサレハ之ヲ

徵集セス但シ戰爭又ハ非常ノ時ト雖モ第二

豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スル時

ニ限ル故ニ後備兵ヲ召集セサレハ第二豫備

徵員ヲ徵集スルコトナシ

第六章 雜則

計算法 カツヘ 違反ソム

罰則 處分ス 掲載ノセ

〔註解〕此章ハ各種兵役ノ適齡者ノ届出方現役中給

與方又ハ服役年期ノ計算法及ヒ此徵兵令ニ

違反スル者ノ罰則等種々ノ規則ヲ掲載ス

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十

七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五

日迄ニ戸主 本人戸主ナレハ自身以下 ヨリ本人

ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載

シ本籍ノ戸長ニ届出可シ

氏名苗字 住所 スマホス
族籍 華族士 誕生 ヲマ記
族 平民 誕生 ヲマ記
職ノカキ

説明 トキア 明瞭 ハツキ
カス 明瞭 リスル

異動 死去スルトカ又ハ
戸主トナリタルト
カ戸主チヤメニスルト
カ戸籍上ニカハリタコ
トノ出来 事由ケ
ルコト
二十歳未満ニシテ現ニ
服役スル者 第十條ニ掲
志願シテ鎮臺又ハ營所
ニ在リテ現ニ兵役ニ服
スル者ノルイ
チ云フナリ

〔註解〕本條ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明瞭ナリ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齒滿二
十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五
日迄ニ書面ヲ以テ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ
届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルト
キハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ
届出可シ但二十歳未満ニシテ現ニ服役スル者
ハ届出ルニ及バズ

〔註解〕本條モ亦ク説明ヲ要セスシテ明瞭ナリ

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第

詳記 シハシク
シルス

翌年 アケノ
トシ

範圍内 ナル

第十七條ノ各項 一
項ヨ
リ五項
マデ

十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止
ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタル
トキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同
月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ
但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當
ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

〔註解〕毎年四月十一日ヨリ九月十五日マデノ間ニ

第十七條ニ掲クル各項ニ適當スル者其資格
ヲ失ヒテ徵集ヲ猶豫スヘカシナル範圍内ト
ナリタルキ又ハ第十八條ノ各項第十九條第

第十八條ノ各項一頂ヨ
マデ

該條十七條
チ云フ

二十一條ニ適當シテ徵集チ猶豫セラレタル
者其事故止ミテ徵集チ猶豫スベカラサル範
圍内トナリタルト又ハ第三十二條ノ但書ニ適
當スヘキ者即チ第十七條ニ當ル者第二豫備
徵員ト爲リタル後六個年以内ニ該條ニ掲ク
ル資格ヲ失ヒタル者アルトハ其事柄ヲ詳カ
ニ記載シテ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日
迄ニ戶主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出可シ但シ九
月十六日ヨリ以後翌年ノ四月十日以前ニ本
條ニ適當シテ徵集スヘキモノトナリタルト

其地寄留ノ
地チ云

証人ヲユウ本管廳ノ本籍
ル地ノ郡區役
所又ハ府縣廳

定額キマリタ日給ウキ
ルタカ

ハ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出ヘキモノト
定ム

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ
徵集ニ應ゼント欲スルトキハ其地ニ居住スル
者ヲ以テ証人ト爲シ八月十五日迄ニ戶主ヨ
リ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届
書ハ寄留地ノ戶長ニ差出ス可シ

(註解)本條ハ平易ニシテ別ニ説明ヲ要セス

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ
與ヘ服食等ヲ給ス

例外ノホカリ

入營ノ期限 四診斷書
ウ
ダイ 即日ソノ
ガキ 即日ヒ

(註解)陸軍現役兵ノ鎮臺若シハ營所ニ在ル年限中
又ハ海軍現役兵ノ軍艦ニ在ル年限中ハ陸軍
海軍ヨリ定額ノ日給ヲ給與シ且ツ衣服食物
ヲモ給與スヘキモノトス但第十一條第一項
ノ如キハ此例外タルヘシ

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シハ

營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者
ハ醫師ヘ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其
事故止ムトキ亦同シ

(註解)抽籤已ニ終リ入營ノ期限ニ當リ病氣或ハ罪

ヲ犯シ裁判中等ニテ鎮臺又ハ軍艦ニ入營シ
難キ者ハ其事柄ヲ詳カニ記載シ其病氣ニ罹
ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ早速戸長ヘ届
出可シ又其病氣ガ犯罪ガノ事故止ミタルキ
亦タ早速戸長ニ届出可キモノトス

第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日

ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シ
ノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先
テ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ
要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タス徵集ス

事故 病氣又ハ罪ヲ犯シ
テ裁判所ニ拘留セ
ラル等
ナイフ

翌年徵集ノ期アケノ年
入營ノ

日犯罪者 ツミトナルベ
限 犯罪者 キコトナシ
タル
モノ

検査 シラ
ベル

身體ヲ毀傷シ カラダヘ
ケル即チ手ノユビチキ
リタリワザトケガチシ

〔註解〕第三十九條ニ掲グル疾病又ハ犯罪者ニシテ
其年ノ九月一日ニ至ルモ事故未タ止マザル
トキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ身
體ヲ検査シ其年度ニ徵集スヘキ他ノ現役兵
ニ先チテ徵集ニ應ゼシム但戰爭ノ時又ハ非
常ニ當リテ兵員ヲ必要トスルトハ其翌年ニ
徵集スヘキ期限即チ四月ヲ待タズシテ徵集
スルナリ

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ
疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡

タリス 疾病ヲ作爲シツ
ル類
シヤナルニワザト 逃亡
病氣ヲコシラヘル
イヘデ 潜匿 カラダヲ檢
スル
査所 カラダヲシラ 參會
ベルトコロ
ア ヨリ
フ

若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所
ニ參會セス又ハ第三十五條第三十六條ノ届出
ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ
徵集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條ニ掲グル
者ニ先チ抽籤法ヲ用ヒス徵集ス

〔註解〕兵役ヲ免レンカ爲メニ故サラニ身體ヲ毀傷
シ又ハ病氣ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲例之ハ
戸主ニ非サル者ヲ戸主ト云ヒ戸主ノ年齢滿
六十歳以下タルニ滿六十歳以上ナリト云フ
類總テ無キコト有ルカ如クニスル所爲ヲナ

正當ノ事故 病氣又ハ犯
判所ニ拘留セラレ我身
ノ自由ナラサルモノ又
ハ父母ノ重病又ハ一家
ノ安危ニカ、ハルノル
事

掲載ノセ
ル

計算 カンザ 起算 カツヘ
ヤウ ハシメ

シ又ハ逃亡シ若シハ潜匿シタル者又ハ正當
ノ事故ナキニ徴兵ヲ検査スル場所ニ參會セ
ス又ハ第三十五條第三十六條ニ記載シタル
戸長ニ届出方ヲ忘リタル者此等ノ者ハ各罰
金又ハ重禁錮ニ處斷シタル後抽籤ノ法ヲ用
ヒスシテ直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年ニ至テ
身體ヲ検査シ第四十條ニ掲載シタル者ニ先
チ抽籤セシテ徵集スルモノトス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營
年ノ四月二十日 第四十一條ニ掲クヨリ起算シ
ル者ハ入營ノ日ヨリ起算シ

其定例編入ス可キ年例
ハ明治十八年現役ノ徵
集ニ應シ入營シタル者
ハ二十一年四月二十日
ニ至レハ現役ヲ終リ豫
備役ニ編入スベキ定リ
タル年度ハ乃チ二十一
年四月二十日ニシテ二
十五年四月二十日ニ至
リテ後備役ニ編入スル
等定リタル年ヲ云フ
算入カツヘ
コム

監視 此條ニ云フ監視ハ
輕罪ノ刑ニ附加ス
ル監視ヲ云フ但輕罪
ニハ監視ニ附スルモノ
ト監視ニ附セサルモノ
トアリ故ニ若シ監視ニ

豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス
可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ
處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル
者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年
期ニ算入セズ
〔註解本條ハ各種兵役ノ年限ノ計算法ヲ示シタル
ナリ〕

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六
條第三十九條ノ届出ヲ爲サ、ル者及ビ検査時
日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セ

附セラレタ
ルル件ヲ云フ
検査時日ヲ
指定スル日
限指定リ
キマ
故サラニワザ
怠リステ
オク

拘留
オキ
トメ

妨害
オキ
トメ
マヤマ
情狀
ヨウ

サル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
 (註解)第三十四條第三十五條第三十六條第三十九
 條以上四個條ノ届出チ故サラニ怠リタル者
 又ハ身體ヲ検査スル時日ノ指定ヲ受ケ即チ
 何月何日ニハ何處ノ検査所ニ出頭セヨト達
 セラレ正當ノ事故即チ病氣又ハ罪ヲ犯シテ
 裁判所ニ拘留セラレ等ノコトナキニ其検査
 所ニ出頭セサル者此等ノ者ハ徵兵事務官吏
 ノ職務ヲ妨害スルノ罪アリトス故ニ其情狀
 ニ因リテ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

ベキモノトス

第四十四條

兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜

匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐

偽ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮

ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(註解)常備後備國民等各種ノ兵役ヲ免レト欲シテ

逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ又ハ

疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲アル者此等ノ

者ハ公務ヲ行フヲ拒ムノ罪アリトス故ニ其

罪狀ニヨリ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處

附加
ツケク
ハヘル

公務
オホヤケ
拒ナセヨウ
ツミ

罪狀
ツミ
ヨウス

囑托タノ詐稱イツハリトナヘル

處斷シユ偽造ニセツシル

行使ツカフ

シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スルモ
ノトス若シ他人ニ囑托シテ其氏名ヲ詐稱シ
代テ徵募ニ應ゼシメタル者又ハ其囑托ヲ受
ケテ徵募ニ應シタル者等ハ刑法第百七十八
條ニ照シテ處斷シ又兵役ヲ免レンカ爲メ疾
病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑托
ヲ受ケテ其詐偽ノ証書ヲ造リタル醫師ハ刑
法第二百十六條ニ照シテ之ヲ處分ス

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別
ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

施行オコナフ

(註解)此徵兵令ヲ實地ニ施行スル爲メ必要トスル
規則即チ徵兵検査規則海軍志願兵徵募規則
及徵兵事務手續等ノ如キハ別段ノ布達ヲ以
テ之ヲ定ムルモノトス(本書ハ規則全書ノ題
名ニ戻ラス事務條例
事務取扱手續等ハ續編
トナシテ出版スベシ)

註標 兵專規則全書終

明治十七年一月廿一日
同 年十一月三十一日
同 年十一月十一日

版權免許
刻成出版
改題御届

定價四十錢

大阪府平民
註解兼出版人

太田 津 郎

同府東區平野町一丁目三番地

大阪心齋橋筋南久太郎町

發兌賣捌所 小山龜松

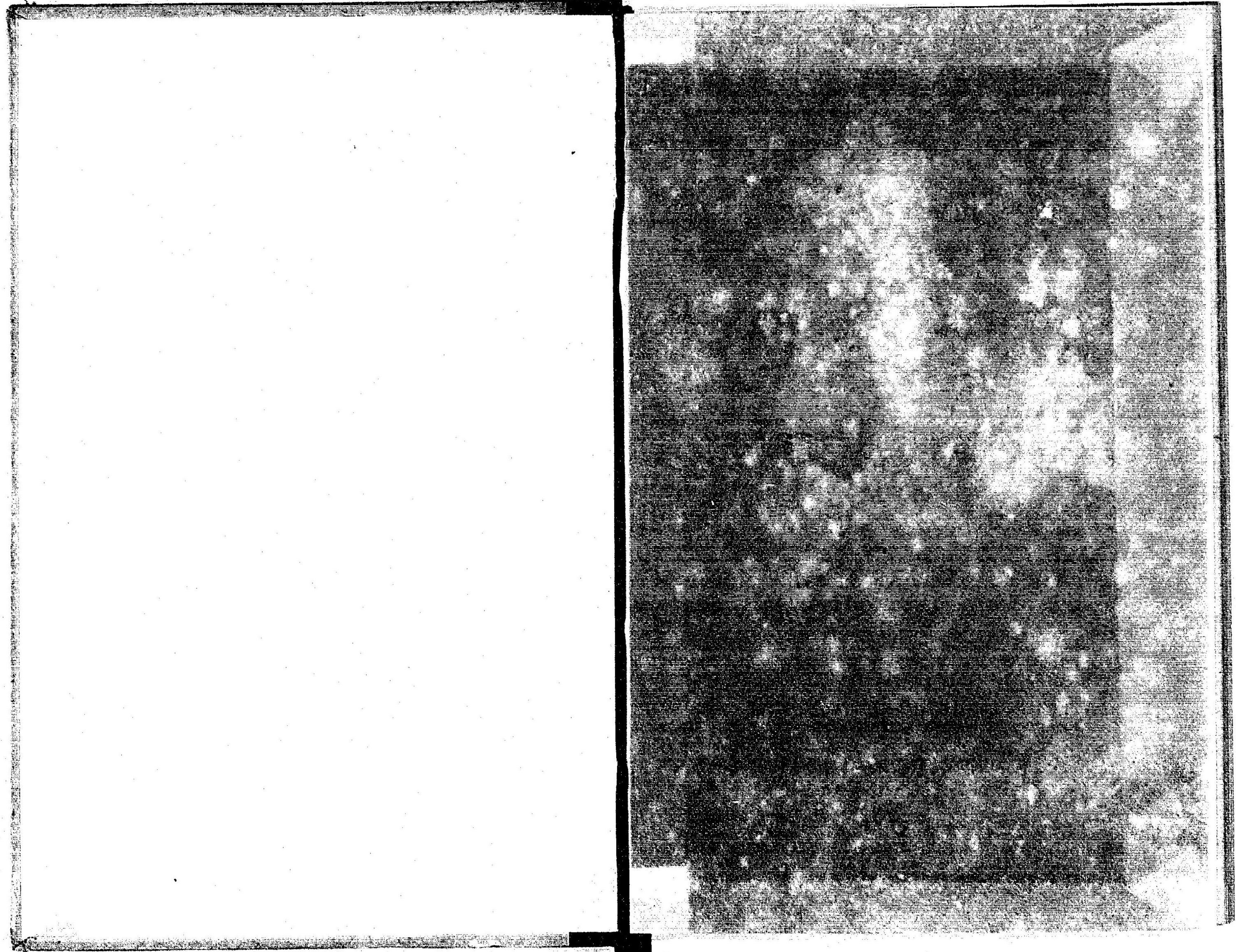
賣 大阪 前川 善兵衛

弘 同 柳原 喜兵衛

所 同 松村 九兵衛

西京 田中 治兵衛

東京 稻田 佐兵衛

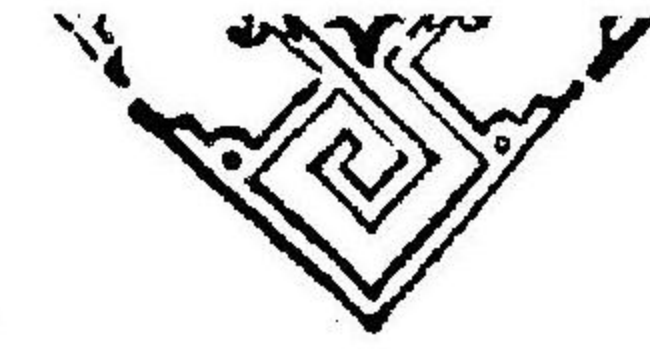


東 京 圖 書 館

新 書 門

十 一

部 類 函 架 號 冊



5

2

276
2
72

標註 兵事規則全書

太田 津郎 註解

明治十七年
十月

大阪

龍池館刊行

039110-000-5

特15-103

兵事規則全書

太田 津郎 / 著

M17. 11

BCC-0358

